

本当の現場の声を聞いてください!



(小長井の松永秀則さん)

六月二日に全国公害被害者総行動の一環として行われた農水省との直接交渉には、有明海から四名の漁民も参加した。交渉冒頭、漁民から悲痛な訴えがあったが、本当に胸を打つものであった。

諫早湾干拓事業の同意取り付けから、長年事業に翻弄されてきた長崎県小長井で漁業を営む松永秀則さん。「影響は許容範囲。水揚げ高で二割程度減少するが、漁業はできる。」との農水省説明を信じて、泣く泣く事業に同意した。しかし、事業の影響は工事着工と共に始まり、主要漁種だったタイラギは十五年連続休漁。アサリやカキ漁も度重なる赤潮被害で、事業が完成した現在も収入がなく、困窮生活が続いている。このような中、やむなく訴訟に立ち上がった松永・原告団長の訴えを、そのままここに紹介したい。

有明海漁民が悲痛の訴え!

よみがえれ!有明海・国会通信

有明海漁民・市民
ネットワーク
(陣内隆之)発行
03-3986-6490
090-8179-2123

小手先の鮎玉では有明海は再生しない

何回も話してはすけど、本当に今、工事でも止まって、昨年のアサリ・カキ被害からそのまま引きずりまして、現在アサリを、秋に入れたアサリをとってしまつて、あと来月、今月から仕事がないような状態なんです。漁業をすつても、漁業はどうにもならないし、それを今年年配の方に言われて、「なんとか出来んのか」と言われてきましたけれども、何とかして頂きたい。それと小長井の方では貧酸素対策と言つて、国と県が多分分かれているんだろと思えますけれども、私はその役員会に出席できませんでしたけれども、曝気をするような形、方向で、その試験をやるといふことで決まつたそうです。そういうのをやつても、何の解決にもならないんです、実際にはですね。まだそういう小手先のことをやるうとしてる。それも私たちの組合は一応、執行部の組合長が自民党の方でありまして、推進側の、極力そつちに近い方の組合長でありまして、特に今まで国の方に協力をしたような形でやつてきたわけですね。しかしもうここになつて、漁業者がどうにもならないと、何とか海を戻すことは



佐賀県大浦のアサリ漁場から小長井方を眺望。何かの補助事業か?工事船が見える。

出来ないんだろつかというところで、役員会でも話をしてきているんですけど、けれども、まだまだいろんな形での国からの鮎玉、県からの鮎玉で、現在引きずつております。

早急に諫早湾の水門開放を!

不可解な原告名簿漏洩と組合からの圧力

「原告には、雇用など国・県からの支援策をやらない」という組合からの圧力が!!
憲法違反の原告潰しが再び始まった。

それと私たちの訴状・名簿がですね、この間の、つい最近の役員会に出ておりました。どこからか漏れているはずなんです。私たちがその個人情報報、ある程度、一定期間守られますよと言ってましたけれども、それが漁協の方に行つて役員会の方に回つております。それで原告の人には、補助金とか補助事業とかはやらないという圧力を、まだうちの漁協の組合長は示唆しております。これは何ででしょうか。これが漏れる所は、私たち原告団と、弁護士と、あと国、裁判所、そこからしか出ないはずなんです。それは私は不思議でなりません。何のために関係ない組合のほうに、そういう訴状がいつたり、個人名簿がいつたりしているのか。

本当に騙されたという気持ちを強く持っている!!

本来私たちは悪いことをしているという気持ちはありません。ただ素直に有明海を戻したいという気持ちで、なんで国を訴えたかと言いますと、やはり国から騙されているということしかないんです、私たちとすれば。あなたたちは、いろんな学者の方を使つて、日本の指折りの先生方の出したアセスメントなんだと、そういうことで私たちを騙して、いかにも影響がないような言い方をして我々に印鑑をつかせておいて、それで結局にはこういう状態になった。それを何にもしないで逃げようとしている。逃げているから私たちは、裁判をせざるを得なくなつたわけです。よく聞いてください。あなたたちから本当に騙されたという気持ちを、私たち大きく持っていますよ。今日は、ちょっと言いたいことを言わせてもらいます。本当にあなたたちが人間であつて、紙の上でそういう仕事をしながらです。本当に私たちの生活のことを考えたら、現場に来て頂いて、本当の現場の声を聞いて頂きたい。ぐるぐる回つて、事業所から熊本農政局、そこから

国は約束を守って、漁業ができる海に戻してほしい...

上がってきたやつをまともにとつて、関係ないんだと、そういう言い方で言われても、私たちは現実そこにおいて、被害を受けている人なんだ。受けているんです。生活ができなくてアツプアツプしているんです。そういう人たちを、あなたたちは足で蹴やるような、今そういう状態なんです。私たちが助けくださいと、言いたいんです。しかしあなたたちに助けてくださいとお願ひしても、目だから、第三者の力で何とかしてもらおうと、裁判をせざるを得ないわけなんです。本当に国民が、国を相手取つて裁判をするというのは、悲しいもんです。自分たちの国をですね。しかしその国の要請をあなたたちが、何人かの人たちのために、公害でも何でもそうなんですけど、何人かの人たちの善良な気持ちがあれば、どうしても防げることなんです。だから私たちは、本当に争いたくない。何とか海を戻して頂ければいいんです。責任も補償も、そういうことよりも、私たちが言いたいのは、やっぱり約束を守つて、我々は漁業で生活をしているんです。漁業が出

来るようにしていただければ、何も文句言いません。ですから間違ひは間違ひと。間違ひじゃなくてもいいんです。これがだめだったなら、こういうことをして海が戻せるんだつたら、何とかしよう。私たちは責任とか、犯人探しはしたくありません。ただ私たちが今まで見てきて、これをやったら出来るんだと、そういう自信があります。だから出来れば、出来ればじゃない、必ず、それを実行させていたきたい。そういう思いで今日は来ましたので、どうかよろしくお願ひします。(拍手)



(6/2 交渉での漁民。左から、平方さん、川崎さん、松永さん)